



令和5年（2023年）1月24日

熊本市・熊本大学キャンパスミュージアム推進室との合同調査による調査成果について記者会見を開催します

昨年、熊本市と熊本大学において、熊本市所有の文化財3点の調査を合同で実施した結果、旧NHK跡地より出土した古墳時代のものと考えられる鉄刀（てっとう）について銘文が確認される等の成果が得られました。

つきましては、熊本大学と合同で調査経緯及び調査成果等について、下記のとおり記者会見を実施します。

記

- 1 開催日 令和5年(2023年)1月27日(金)14:00～(1時間程度)
- 2 場所 熊本大学五高記念館 一階 講義室
- 3 主催 熊本市・熊本大学キャンパスミュージアム推進室
- 4 説明者 熊本市文化市民局長 横田 健一 ほか
熊本大学理事・副学長（キャンパスミュージアム推進室長）大谷 順 ほか
- 5 調査成果等
 - ①調査日 令和4年（2022年）10月14日（金）
 - ②調査主体 熊本市と熊本大学キャンパスミュージアム推進室との合同調査
 - ③調査内容 熊本大学におけるX線CTによる熊本市所有の文化財3点の調査
 - ④調査対象 (1)鉄刀(旧NHK跡地出土 熊本城調査研究センター所蔵)
(2)重要文化財 台付舟形土器(塚原歴史民俗資料館所蔵)
(3)江島栄次郎作活人形頭部(熊本博物館所蔵)
 - ⑤調査目的 (1)錆と残存する木質のために確認できない内部構造の解明
(2)本来の土器の範囲と過去の修復範囲の区別
(3)活人形の内部構造の解明
 - ⑥調査結果 (1)画像解析の結果、銘文が確認された(別添1)
(2)明確な区別が出来ず、実物を確認しながら調査を継続する(別添2)
(3)内部構造が判明し、目の造り方や頭部の製作工程が明らかとなった(別添3)
- 6 資料の扱い 令和5年(2023年)1月27日(金)15:00解禁(記者会見終了後)
- 7 その他 入構に関しては別紙のとおり。

【問い合わせ先】

熊本市文化市民局文化創造部文化財課

電話：096-328-2740

課長：北野 伊織（きたの いおり）

担当：松永 直輝（まつなが なおき）

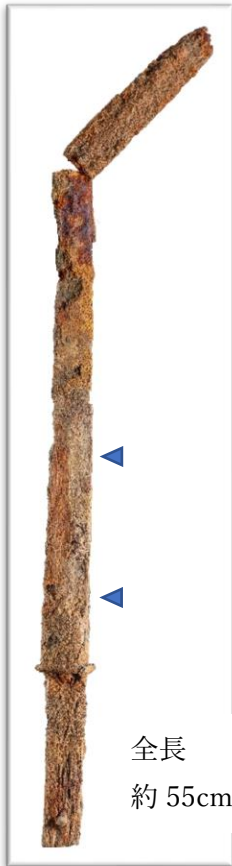
熊本大学研究・社会連携部 社会共創推進課

電話：096-342-2047

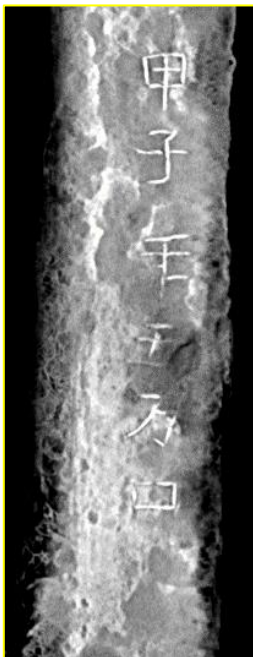
副課長：大谷 真理（おおたに まり）

熊本城NHK跡地出土の紀年銘象嵌鉄刀について

熊本市文化市民局熊本城調査研究センター



全長
約 55cm



1. 発表のポイント

- 熊本市中央区特別史跡熊本城跡のNHK跡地から出土していた古墳時代の鉄刀に金象嵌の銘文があることがCTスキャンによりわかった。調査等で出土した古墳時代の銘文刀剣の出土は全国8例目と珍しい。
- 銘文は6文字。干支の年号と製作月が記載され、西暦604年製作の可能性が高い。

2. 発掘調査の概要

調査期間：令和4年3月～令和4年9月

調査目的：NHK跡地の史跡整備に向けた情報収集

3. 「甲子年」銘刀

月カ中カ

銘文は「甲子年五□□」

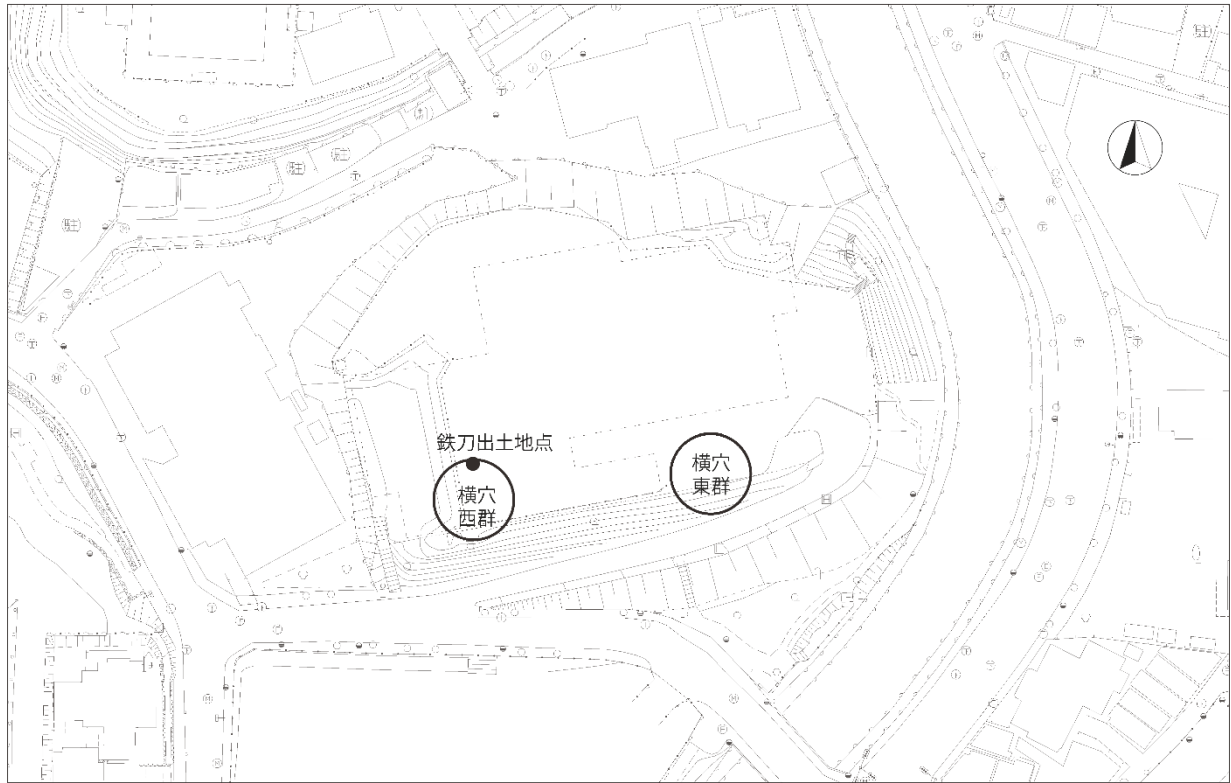
銘文は6文字あり、象嵌手法で表面の鍔に近い部分に刻まれている。甲子年とは、干支で表した刀を作った年で、西暦604年の可能性が高い。

残り3文字は作った月の可能性が高い。□月中の表現の類例がある。

(埼玉県稲荷山古墳、熊本県江田船山古墳)

4. 本資料のもつ意義

- 象嵌銘文の刀剣そのものが大変貴重であり、出土例は10例に満たない。(奈良県東大寺山古墳、奈良県石神社伝世、千葉県稲荷台1号墳、埼玉県稲荷山古墳、熊本県江田船山古墳、島根県岡田山1号墳、兵庫県箕谷2号墳、福岡県元岡G-6号墳)
- 銘文刀剣の多くは国宝もしくは重要文化財に指定されている。
- 本資料は兵庫県箕谷2号墳出土銘文刀(戊辰年)に類似する。既存資料と比較検討することで、配布の背景にある当時の社会状況や国家形成過程の実像に迫ることが可能となる。本資料の持つ意味は非常に大きい。



鉄刀出土地点と横穴の位置



熊本城跡N H K跡地遠景（南から）

重要文化財台付舟形土器（塚原歴史民俗資料館）



写真1 重要文化財台付舟形土器

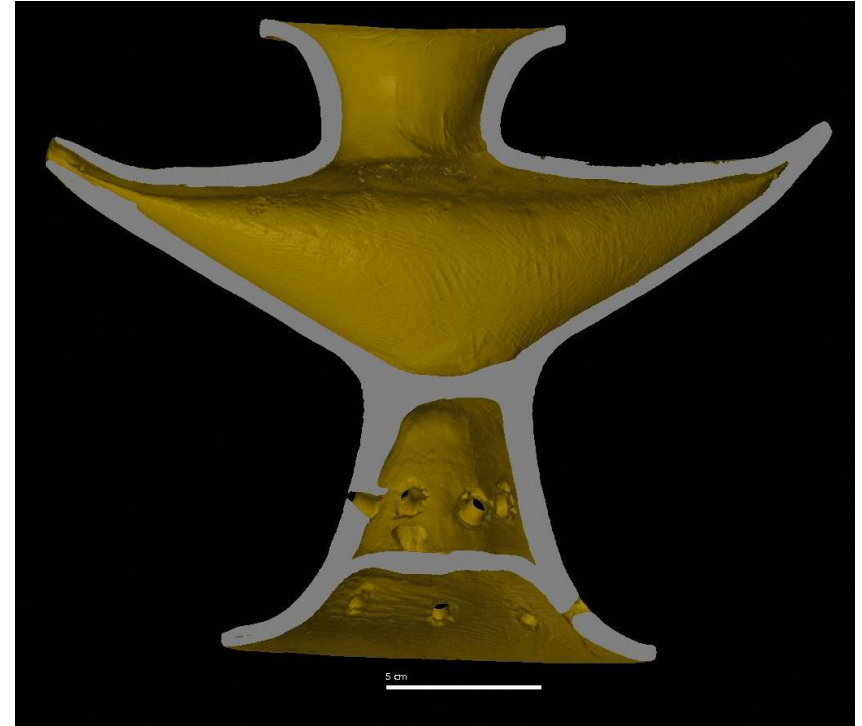


写真2 CT画像

- ・年 代 弥生時代後期
- ・出 土 地 熊本市城南町宮地
- ・文化財詳細 舟形の胴部に脚台を取り付けた土器で、先端部には小孔をあけてあり液体を注ぐための容器と考えられる。熊本を代表する弥生土器の一つであり昭和42年(1967年)に重要文化財に指定された。
- ・調 査 目 的 本来の土器の範囲と過去の修復範囲の区別
- ・調 査 結 果 本来の土器部分と過去の修復範囲について明確な区別は出来なかったものの、土器内部に内容物（土玉）が2つ入っていることやその形状などこれまでわかっていなかったことが明らかになった。
 今後は実物とCT画像を確認しながら調査を継続する。

江島栄次郎作活人形頭部（熊本博物館蔵）

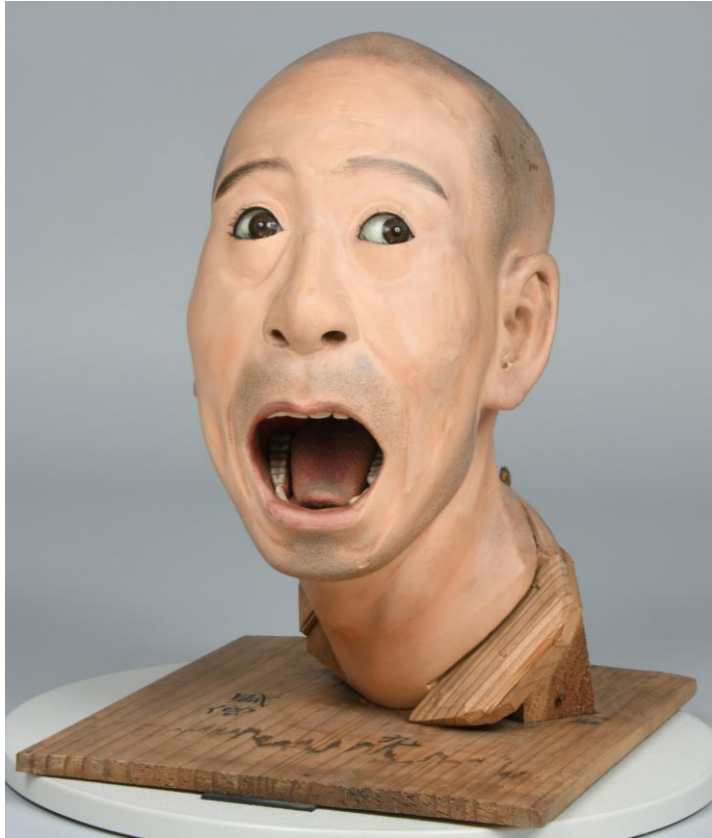


写真1 江島栄次郎作活人形頭部

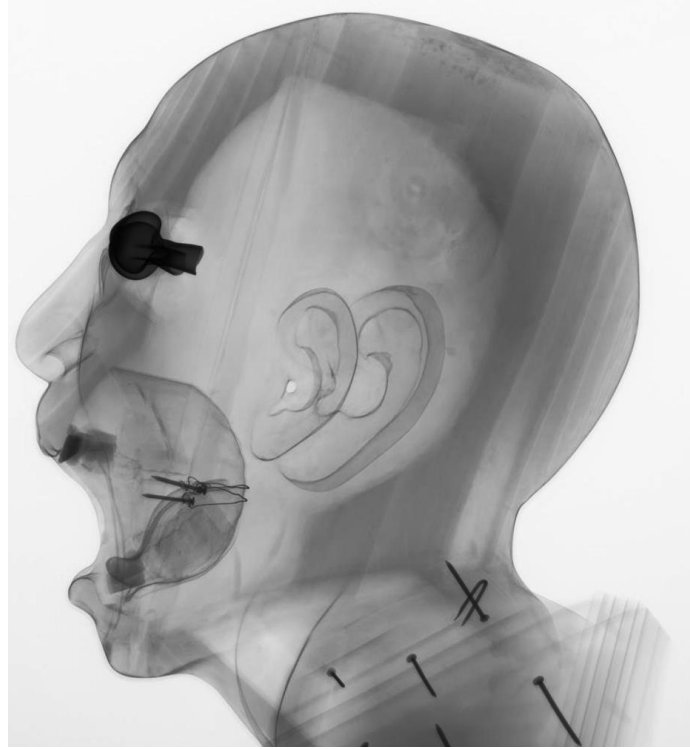


写真2 CT画像横から

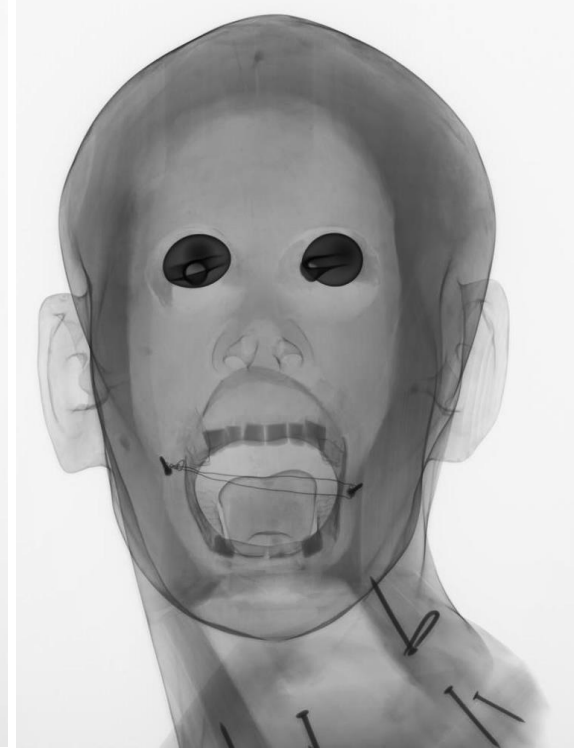


写真3 CT画像正面から

- ・ 作 者 江島栄次郎(熊本出身、松本喜三郎の弟子)
- ・ 作品詳細 昭和10年(1935年)の加藤清正公325年忌を記念し、本妙寺で開催された活人形興行『清正公一代記』の賊僧の頭部
- ・ 調査目的 活人形の内部構造の解明
- ・ 調査結果 これまで明らかになっていなかった活人形の内部構造が判明した。
歯は木材と異材、目はガラスの義眼という近世の彫刻には見られない技法が用いられる。
頭部に内刳を施すなど仏像彫刻の伝統的な技法も用いられている。



※入口から入り、「北地区門衛所」にて手続き後、入構してください。

※車でご来学の際は、北地区門衛所で入構手続きを行い、入構してください。
車は空いている駐車場へ停めていただいて構いません。